

奉
教
番
譯
魚
管
西
亞
國
志
一

ル 8
3040
1

75

70

65

60

55

1800

門 凡 8
號 3040
卷 1



秦教翻譯
魯西亞國志目錄
上冊

卷之一

魯西亞國名義并剖基由来第一

怕員，疆界并國中，大河第二

西魯西亞諸州志第三

國都「七久」紀事第四

卷之二

西魯西亞諸州志第五



カルクンケルノ記第六

東魯西五諸州志第七

莫斯科未西韃靼、中、五国西松太臘甘、記第八

卷之三

莫斯科未西屬セハ韃靼兵蠟皮西、記第九

北高海、記第十

ガリア河コニテ金沙ヲ得ル、記第十一

新都「バテルスフルグ」、記第十二

下冊

卷之四

止白里總記第十三

止白里、地ノ開、記第十四

止白里、山川、記第十五

卷之五

止白里諸城地、記第十六

ゲウリア諸城地、記第十七

止白里^獸ゲウリア、氣候物産、記第十八

止白里^魚銚畜魚類、記第十九

卷之六

止白里ノ海邊黑龍江「エニセア」河邊諸地人物記第
二十

「サモエラン」諸部ノ記第二十一

附大國

韃靼諸部ノ記第二十二

卷之七

魯西亞建國以來諸主ノ記第一

「ヨハン」子スバシリ「テス」ノ記第二

卷之八

魯西亞國中興主「ベテル」ユロオテ「一代」君記

目錄畢

魯西亞國名義并開基由來第一
幅員、疆界并國中、大河第二
西魯西亞諸州志第三
國都元大正紀事第四

教奉
翻譯
魯西亞國志

初編卷
之一

標題

オウテ、エン、ニイウウエ、スタアト、ハン、(フト、リュスシセオフ、モネコ
ビヤ、ケ井ゼルレイキ、

魯西亜一名「モスコビヤ」ト云ル帝国ノ古今ノ政治

ヒストリイ、リユスタンド、エン、テヌヒルッス、ユロオト、ホルステン

魯西亜國歴代ノ大君ノ紀

和蘭

ヨハン子ス、フルウデレキ 撰

同國

山 O.

ヒリッ、フ圖画

一千七百四十四年「ウツンキト」(和蘭七州ノ一)ノ學校於テ

刊刻

魯西亞國志卷第一

土浦藩臣 山村昌永 奉

教翻譯

魯西亞國名義并開基由來第一

抑此我カ歐羅巴洲中、於テ最隆盛ナル帝國、魯西亞其政令風
 俗、皆古今、異アリ、殊、近時ノ帝、ベテハ、アレキシイノ井スル
 者無雙、大徳アリテ、改革スル所、者最多ク、其威徳政化
 他、諸國ニ傑出セリ、今此、其国土城地、幅員廣狹、氣候曲
 礼法、教并、其國、開基シテ、後君長アリシヨリ、以來、今時ニ至
 マテ、歴史著シ、詳ニシテ、以テ後學ニ示ス者、己我カ和蘭、

人恒此國通聘交易ヲナス者ナシ、宜ク此國ノ事實ヲ詳シ
シテ、而シ其内ノ緊要ノ處ニ於テ、自ラ注メ心ヲ用テ其盛ヲ得セシ
メント欲スルナリ、因テ録スル所左ノ如シ

魯西亞國我邦(和蘭)呼シテ、リユスランドト云、又稱メ、リユスランド
リユスランドト云、又稱メ、リユスランドト云、又別
名ヲ莫斯哥未亞ト云

抑此國名、由テ起シ所諸説紛然トシテ、一チラス一説ニ云コシ古、天尔
馬祭亞國ノ王子リユスト云、人名ヨリ起ト、又一説ニ云古、

世ニ此國ヲ稱メ、リユスランドト云、又稱メ、リユスランドト云、
諾尾ノグニ、太古洪水時ノ人ニシテ、其所生、三人ノ子、
亞細亞四方及、リユスランド、リユスランド、リユスランド、リユスランド、
長子ヤハト

第八子リユスナル者、苗裔ナリ、故ニ斯ノ如クニ名ヲト、又一説
魯西亞ト云、リユスランド、リユスランド、リユスランド、リユスランド、
斯刺勿泥亞國、方言リユスランドト云、リユスランド、リユスランド、
轉メ

七章 一行 此國ノ稱メ、リユスランドト云、又稱メ、リユスランドト云、
其地ヲ開拓シテ、廣大トナルガ故ニ

七葉表 一行 原本リユスランドト云、又稱メ、リユスランドト云、
十行 原本リユスランドト云、又稱メ、リユスランドト云、
此州ノ中

裏 二行 古註リユスランドト云、又稱メ、リユスランドト云、
猶拂郎察、其内

三行 其其身未年名、リユスランドト云、
所以一説ニ云コシ古、リユスランドト云、
止

人恒此国通聘交易ヲナス者ナシ、宜ク此国ノ事實ヲ詳シテ、而シテ其内ノ緊要ノ処ニ於テ、自注ノ心ヲ用テ其盛ヲ得セシメシト欲スルナリ、因テ録スル所在、如シ

魯西亞国我邦(和蘭)呼シテ、コオトト云、又稱シテ、コオト

リニスラント(コオト)又コオト又コオトト云、又別

名ヲ莫斯科未亞ト云

抑此国名、由テ起シ、所諸説紛然トシテ、一チラス一説ニ云ク、古、天尔

馬祭亞国ノ王子リニスラント云、人ノ名ヨリ起シト、又一説ニ云ク、古、

世ニ此国ヲ稱シテ、コオト又コオトト云、コオトト云、コオトト云、コオトト云、

諾尾太古洪水時ノ人ニシテ、其所生、三人ノ子、一ノ長子、ヤハント、

第八子、コオトナル者、苗裔ナリ、故ニ斯ノ如クニ名リト、又一説、

魯西亞トシテ、コオト刺勿泥亞国ノ方言、コオトト云、コオトト云、コオトト云、

此国ヲ稱スルノ言ナリト

此国後世ニ至リ次第ニ強盛シ、其地ヲ開拓シテ、廣大トナルガ故ニ、

コオトト云、コオトト云、コオトト云、コオトト云、コオトト云、コオトト云、

其国恒ニ雪多クシテ、白色ヲナスコトヲ云、

莫斯科未亞、魯西亞、内、一州ニシテ、コオトト云、コオトト云、

ナリ、故ニコレヲシテ、其總国ノ號トモナスコト、猶拂郎察、其内

ノ一カノ名ヲシテ、總国ノ号トナスカ如キ者ナリ、コオトト云、コオトト云、

類)而其莫斯科未亞名リ、所以一説ニ云ク、古、コオトト云、コオトト云、

子「メセコ」ト云人所居ノ地ナルニ因テ名クル所ニシテ「メセコ」
此地ニ居リシ事ハ既「ツサルム」(古経)ノ經文中ニモ載セド
又一説ニ云コレ「モソコ」ト云ハ言ヨリ出タル者ナリ「モソコ」ト云
ヲ射ル人ト云「イ」ニテ此地ノ土人ハ幼キヨリシテ弓矢ノ慣習スル
因テ名クル所ナリト云リ然レ氏又一説アリ「モ」最近キ乎此
國都「モスコウ」ノ地ニ河アリ「モスクウ」ト云此河ノ名ニ因テ
其地ニ名ク因テ又總國ノ号トモナスト云ヘリ
上ニ云フ如ク此國ノ名義其的實ナル「イ」今詳ナラサルニ「イ」ナラズ
其始メ君長アリテ此國ニ至タリ「者」亦詳ナラズ古ノ史
書所載者ヲ抄ク左ニコレヲ記ス

古史ニ曰ク凡ク大海(又黑海ト云亞細亞歐羅巴ニ大洲ノ間ニアル海ヲ云ヘリ)ノ邊今韃靼人所居
等ノ地古ノ世ハ「アラニイ」一名「アラウニイ」ト云ハル國及「コシヨウ
ニイ」一名「コシヤウニイ」ト云ハル國アリ又亞瑪作榻ト云ハル國其女人
猛勇ナルハ古ノヨリシテ著キ者大乃河ノ邊ニアリシヲ西洋中
興後第六百五十年此(我邦孝德齋明天智ニ朝御宇ノ間ナリ)ヨリシテ沙爾馬
齊亞國及「斯刺勿泥亞國」ヨリシテ兵ヲ以テコレ等諸國ヲ
伐テ從ヘタリ此時大乃馬祭亞國(此國古ノ斯刺勿泥亞國ノ内ナリ今ノ別國トナシ)ノ主ニ
三人ノ兄弟アリ長ヲ「セク」ト云次ヲ「レク」ト云少ヲ「リス」ト云
此三人此等ノ地ヲ經畧シ又北方諸州多クノ曠漠ニシテ人居
モ少ナル地ヲ開拓シテコレヲ治メ三人各一ノ五國ヲ建ツ乃「セク」

ナリシカ、其後此国一統シテ「コロオトホ」ト
(魯西亜國主尊号)
コレヲ治シヨリ始メテ子孫傳統、大國トナレリト云
(其事ハ世紀ニ詳ニ載タリ)

幅員疆界并ニ國中、大河第二

此帝國威德隆盛ニテ、加山亞私大臘甘止白里等、諸王國
ヲ併テ總國、廣キテ天下無雙ナルノミナラス、其内狄羅巴
洲ニ係土地、シモ亦甚大ニテ、同洲、諸國都ラコレニ及テ者
ニ即狄羅巴ニ係、地ニ其幅員直径入尔馬泥亞國、里法
ヲ以テコレヲ計ハシ、長ク四百五十里(日本九百餘里)、廣ク二百四十里(日本八十餘里)、ナリコシ狄羅巴洲、東方盡境ニ所在ニテ其疆界ハ東ハ

亞細亞洲、大韃靼、地ニ連リ(今時ハ大韃靼、天地ヲ開拓シテヨリ日本、地ニ連リ、尚東方亞細亞、地ヲ尽シ此亞里止利加洲、南ハ小韃靼及北高海ニ至リ、西ハ波羅泥亞、南端、地ニ連リ)、西ハ波羅泥亞、西際亞諾尔勿入亞等、諸國ニ界ニ北ハ冰海ニ臨メリ

此國極テ廣大ナリ故ニ其諸州氣候甚ク不同アリ、大抵寒
地多クソ、暖地少クシ、是ヲ以テ其晝夜長短モ亦齊シカラズ、
タトハ一処、地晝長キ一十六時半、夜短キ一七時半ナル一アリ、
時ニ又一処、地晝長キ一二十時半、夜短キ一三時半ナル一アリ、
(西洋ハ晝夜ヲ二十四時ニ分キ、一時ハ即此方ノ半時ナリ)
世ニ「リユス」ラントト稱スル者「スワルチ」(黒ク)、「ウヰツテ」(白ク)、二種
ナリ、「スワルチ」ナラントト、則今、波羅泥亞國、属州ナリ、「ウヰツテ」

リユスラントリユスラント即莫斯科未亞國ナリ（按ハニ西書間々此説ニ反シテリス
別名ヲ「ワサッテリスラント」ハ波羅泥亞ノ内ノ地ニシテ
「カタラセセリユスラント」別名トス者アリ未タ孰カ是トイフ知ラズ）

此國中河水極ラ多ク而シテ其河或ハ其源他國ノ地ヨリ出ワルモアリ、
或ハ此國中ノ山嶽溪水沼澤等ヨリ出シモアリ。今讀者ノ勞ヲ
省クガ為メ、其内最大ナル河水、説ヲ撰テ左ニコレヲ記ス、其
他ノ河水ハ多ク其河ノ所在、州郡ノ下ニコレヲ記ス

國中最有名ノ大河即窩爾加河ナリ、コレ（カ）歐羅巴洲中第一
ノ大河ナリ其源ハ里都亞尼亞界ヨリ出テ河ノ中ニ諸魚
甚多ク又多クノ分流ヲナシテ、亞細亞大隈其ノ地ニ至リテ北高
海ニ注ク此河ノ長サ凡六百餘里（日本、一千
二百餘里）アリト云フ、

テニエルテニエル河ハ古今世ニ「ホニスチチス」ト稱セリ、其源「ウエエト」ト云フ
「ソ」ノ南邊即國都「モスコウ」ト云フ、西二十二里（日本、四
十四里）ナル処ヨリ
出テ里都亞尼亞地内ヲ流シタテ、河水ヲ受テ、而シテ北方北海ニ注ク
此海ニ注ク処、上流至十里（日本、一
百餘里）ナル処、河ノ中央多クノ岩石
アリコレヲ名ケテ「ホコヒ」ト云フ、コレニ因テ大船ヲ通シカタク其形恰モ石
ヲ置テ堤塘トナセルニ似タリ、水若漲キハ岩石ノ上ヲ越ル、ハ一六
七尺若クハ一丈ニ及シテ下ニ濺キ數多ク、飛泉ヲナス「ユサウケン」ト
人恒ニ此岩ノ後ヲ以テ伏兵ノ処トナシ小舟徑來セリ、此飛
泉スル、岩凡ソ十三処而シテ其内一岸最高キアリ、コレヨリシテ
下流ノ処「ヤセルト」ト云フ、此河ノ合タル処ニ至ル迄、間一十餘、小嶼

嶋アリ其嶼嶋或乾土モアリ或泥湿ニテ惟蘆荻ニ滿
 テハモアリテ諸嶼嶋間或ハ小舟ヲモ通シカタキアリ此處ヲ
 「コサツケン」ノ人呼テ「スカルボイカ」カ「ガイスク」ト云フ「軍卒」
 寶庫ト云ハ義ニシテ「コサツケン」ノ人此處ニ伏兵ヲ死シヨリ
 シテ大海ニ泛シテ剽掠ヲ為スニ便イレバナリ
 杜尔架河トルカイテ其源「ウオコグダ」地ノ南邊ヨリ出テ其末ニ分チ
 「ソルカン」地ニ至テ台海ニ注グ

「ト」河一名大乃河「エハ」ウク「レシ」ボト云ハ湖ヨリ出テ其形恰
 蛇、蜿蜒スガ如ク屈曲シテ、亞細亞、歐羅巴二大洲、界ヲ分チ
 墨何的湖ニ入、此湖水、大海ニ通セリ

「オ」カ河、其源、韃靼界ヨリ出テ、莫斯科未亞州、南邊ニ入、
 尔加河ルカニ合ス

阿比河アビ其源「キタイ」ト云ハ湖ヨリ出テ、普西亞ニ属セ、韃靼地ヲ過
 キテ、亞細亞、歐羅巴二大洲、界ヲ分チ、「サ」エ「テ」
 六口ニ分、皆氷海ニ注グ

西魯西亞諸州志第三

此國ヲ分テ四十部トシ又コレヲ統ニ四大部ヲ以テス其第一ハ「シ」ユ「ト」
 「メ」ス「ラ」ンド（西魯西）第二ハ「オ」ク「ス」ヒ「リ」ユ「ス」ラ「ント」（東魯西）第三ハ「モ」ス
 「フ」ヒ「セ」タ「ル」（屬、莫斯科未亞）第四ハ「モ」ス「コ」ヒ「セ」ツ「ア」ラ「ント」（屬、光蠟皮亞）

地ノナリ

其第一「ウエストロム」波羅泥丑及「里都丑」界ニヤリテ所
統九季五部アリ

其二「フレヌウ」北地公國、號アリ魯西亞、人呼テ「フ
フレヌウ」

ト云フ「礼勿泥丑」界ニアリテ「ヘイ」
「フレヌウ」湖ニ因テ

其界ノ分ツ北地周匝「ハル馬泥丑」國、里法ヲ以テ之ヲ討シ
七十里（日本、一
百四十餘里）古ハ自立ノ君アリシガ一千五百零九年（日本永
正六年）

明正徳四年）魯西亞、大君「ヨハン」ハ「フレヌウ」コレヲ併セテ魯西亞

ノ地トス

「フレヌウ」即其府城ナリ、廣大繁華ニテ城垣堅固魯

西亞國中ニテ有名ノ地ナリ

「ヘト」シテ又名「コト」ト云亦廣大ニ商賈湊會スルノ地ナリ

然レ一千七百年（日本元祿十三年
清康源三十九年）ニ「雪際」丑ヲ戰、時ニ「タビ

兵火」為ニ火災ニ逼リ舊ノ如クニ非ズ

其二「ノホコロ」ナリ其地「フレヌウ」界ノ「イルマン」
「オノガ」兩湖

ノ間ニアリ其府「ノホコロ」又名テ「ゴオト」
「ホコロ」ト云（ゴオト
ハナリ）

其府内廣大ニ要害極ニ堅固、コレ「雪際」丑國ト、界ヲ堅クス

ル、城地ナリ此城「高爾加河」臨ミ北極出地五十八度二十三分

ニ當リテ諸魚極ニ夥シク舟船往來スルニ宜ク商賈最便利

ナリ土地モ亦肥沃ニシテ夥ク諸穀麻桑蜜蠟皮革茅草等ヲ出ス此

ナリ土地モ亦肥沃ニシテ夥ク諸穀麻桑蜜蠟皮革茅草等ヲ出ス此

地之所製、草魯西亞總國、中ニ於テ最上品ノ是ヲ以テ昔
ヨリシテ諸邦、高貴漢會スルニ世ニ名アリテタ、其隣國ノ
礼勿泥垂、雪際垂等、ミナラス弟那瑪ル加入ル馬泥垂、和
蘭等、諸國ノ人モ多ク此地ニ於テ貨物ヲ交易シテ北方
第一、都會、地ニ諸國ノ人皆商館ヲ建列シテ人烟
稠密百貨富饒ナリ故ニ其土人、諺ニ云ク誰カ天ニ勝ンヤ
誰カゴカト、ホスロト、勝ンヤト又云ク此府、宏麗富靡
ナル、意太里亞國、邏馬城ニ比ベシト云ハ、過テ誇ルナリ、
邏馬、其盛スル、此府、此ニキ非ズ然レモ此府城蓋昔時
今ヨリモ廣大ナリシナリ、何レトナハ此府、外面四方ニ多ク

城垣高臺等、遺地存スルナリ而シテ其遺址ヲ尋ズルニ高臺
皆宏大、城垣ハ松樹、大材ヲ棟ニ置テ厚ク堅固ニ造築
シタリト見スル、其廣大ナル昔及ビ也、故ハ此地昔
ヨリシテ魯西亞、有タリシガ一千四百二十七年（日本應永三十
四年明宣德
年）ニ里都亞尼亞國ハ、（日本文明九年
明成化十三年）ニ魯
トナス、一凡五十年ニシテ一千四百七十九年
西亞、大君ヨシ子スバシリウス、ゴロツシニ大軍ヲ以テ奪取リ舊視
セリ又其後ヨシ子スバシリウス、ウウエチ（上ニ云フゴロツシニ魯
ナリ下、世紀ニ詳ナリ）
世ニ當リテ此地一ツ魯西亞、叛キタルニ因テ魯西亞、大君兵
ヲ以テコレヲ平ゲテ大ニ北邑ヲ破殘シ其土豪二千七百七十ナリ

舊視セリ
或曰視ニ復スル

人語

及此其家属等之其マテ悉クコレヲ殺戮シテ其死ヲ窩ル加河
ニ投セシマリ。此等数度ノ戦ニ因テ府ノ廣キヲ昔ニ及セシマリ
一千七百年（日本元禄十三年
清康熙三十九年）此府失火ニ因テ焼失セリ然
レ寺觀一百八十処ハ存ノ恙ナシ尋テ又此府ヲ初メ如ク造
當セリ其内ノ一寺觀ハヘイリゲンアンロニスナル者ヲ此時文
大ニコレヲ擴テ美飾修造セリ。此寺ニ古ハ賢士アンロコツ
ムト云人遺蛻アリ此人昔邏馬ノ土地ナル地白里河ヨリシテ
大海ニ渡リテ此ニ至リテ窩ル加河ヲ渡ル一二漁者ニ其異人
タルコト知ラコレヲ善待セリ因テ此ニ居リ歿ス其遺蛻ヲ此
ニ安置セリ其賢士所携フ銀櫃法服經書等亦今ココニ

ニ貯テ諸国ノ人此詣テ礼拜セリ此寺規制壯麗ナリ奇異
ノ事蹟モ亦多シト云

其三ハ「ラウエル」ナリ其地ノホゴロドノ東ニヤリテ窩ル加河ノ流レニ
傍ヘリ

「ラウエル」即此府城ニテ即府ノ名ニ因テ此一州ノ總名ヲモ又
「テウセル」ト名クルナリ人家二千餘戸寺觀說法所凡セツマリ
其城郭堅固ニシテ一ノ山上ニ造建セリ此地商賈湊會シ
殊ニ王國加山ノ地ヨリメ毎年夥キ貨物ヲ大船ニ裝メ窩ル加
河ニ送ヘテ此ニ輸送シコレヨリメ車ニ裝メコレヲ「ベテハス」ト云フ及此他
諸州ニ送ハ又「ベテハス」ト云フ帝命シテ此地ノ「テウセル」ト云フ河ト

「セウチ」河、間ニ新河ヲ掘開テ、而河ニ通合セシ、因テ大海
及北高海ヨリシテ、窩々所徳海ニ舟船ヲ通行セシム國用、
至極テ便利セシナリ

其四「レスコウ」ナリ其地、里都亞尼亞國ノ界ニナリ

「レスコウ」即其府ニ長ク窩ル加河ニ傍ヒ、一ノ城アリ、其材木
ヲ以テコレヲ造建セリ

「ウキイルキルキイ」堅固ノ城地ニシテ、西方ニナリ、其城ヲ山上ニ造
建シテ、「レロ」ト充河ニ臨ナリ

「ウオロクス」小城地ナリ、東方ニナリ、「ヂユイ」ハ「河」ノ源ニ近シ

其五「ヒイル」スケイ「ナリ」其地亦里都亞尼亞國ノ界ニ近シ

「ヒイル」即其府ニ美廉、城地ナリ、「オブスカ」ト云ル河、杜尔奴
河ニ合スル処ナリテ堅固ナル城ヲ構ヘリ、此処國都「モスコウ」ト去ル

「入尔馬泥亞國」里法ニテ九六十里（日本、二百三十餘里）「スモレンスコ」
ノ地ナリ、一凡三十六里（日本、七十二里）ナリ

其六「公國」スモレンスコ「ナリ」其地亦里都亞尼亞國ノ界ニナリテ、「ニイ
ハ」河ノ上流ニナリ

「スモレンスコ」即其府ニ小山ノ上ニ堅固ナル城郭ヲ築キ、石ヲ
疊テ、牆トナシ、五十二処ノ高臺アリ、古ニ此城今ヨリモ廣カ
リシト云然、今尚人家八千餘戸アリ、此府及此公國ノ地
都モ魯西亜、有タリシガ一千四百零三年（日本應永十一年、明永樂元年）

ニ里都亜尼亜ノ人コレヲ侵シ取テ其後一千四百五十二年
(日本享保元年)ニ波羅泥亜国「カシム」第二世ノ王ノ時ヨ
(明景泰三年)

リソ又波羅泥亜ノ属ス一千三百一十四年(日本永正十一年)
(明正徳九年)

ニ魯西亜ヨリ又伐テコレヲ取ハ一千六百一十一年(日本慶長
十六年)明萬

曆三ノ)ニ波羅泥亜ノ「シギス」第三世ノ王子兵ヲ

以テコレヲ侵ス一二年ニコレヲ取ハ其後又魯西亜ヨリ攻

撃テコレヲ破ハ又其後波羅泥亜ノ「ラダス」第四世ノ主

ニ此處僧官ヲ置ク一千六百五十四年(日本兼應三年)十月
(清順治十二年)

十三日ニ魯西亜ヨリ又此府ヲ攻取リ一千六百八十六年
(日本貞享三年)「スモレンス」ノ全地ヲ取テヨリシテ永ク

(清康熙二十五年)

コレヲ魯西亜ノ有ヤセリ

「トリスサ」又名「トリス」ハ小城ニシテ「ニイバ」河ノ向ヒ

「スモレンス」ノ府ヲ去ル一凡二十里(日本、
四十餘里)ナリ

「テメリ」オウサハハ小城ニシテ「スモレンス」ノ府ノ東方四

十里(日本、
十餘里)ニアリ

其七ハ公国「セハリ」ニシテ其地波羅泥亜ノ界ニアリ

「ノホコロト」其府城ニシテ深林アリテコレノ傍ヘハ北林ハ入

ル馬泥亜國ノ里法ニ長サ凡ソ二十四里(日本、
十八里)アリ

其八ハ公国「ケセル」ニシテナリ其地亦波羅泥亜ノ界ニアリ

「ケセル」ニシテ即府城ニシテ小ナリト雖モ要害甚堅固ナリ

其九公國「ウオロケン」ナリ。其地歐羅巴、小韃靼、界ニヤリ。
「ウオロケン」即其府ニシテ小ナリ。雖モ城郭堅固ナリ。此地小韃
靼ヨリ魯西亜、地ニ至ル馬行往來ノ要路ナリ。

其十「チキアホレ」ナリ。其地大乃河ニ傍リ、地皆曠漠
。其地生ぜズ人居モ亦コレナシ。

其十六公國「レサン」ナリ。古ハ地廣シ、都亞尼亞、界ニ至リ
ト云。大乃河及「オッカ」河、間ニヤリテ大乃河ノ源アリ。其
西ハ「カト」河ヲ以テ「スス」ト界ヲ分ツ。魯西亜國
中ニ於テ最肥沃、地ニ殊ニ夥ク諸穀蜜諸魚及シ諸種
ノ野獸ヲ産セリ。此地「ヨハン」ト云。湖アリコレヨリシテ

西ニ渡リテ「ウツバ」河ニ至リ又コレヨリシテ「オッカ」河ヲ過キ
テ窩ル加河ヨリ大海及シ北高海ニモ迄フベシ。

「レサン」即其府ナリ。昔時ヨリ甚廣大壯麗ノ地ナリ。
一千五百六十八年（日本永祿十年）、（明隆慶二年）、韃靼ノ人此ニ入寇シテ

多ク此地ヲ破殘セリ。然レモ魯西亜ヨリ尋テ又コレヲ初
ノ如ク修造シテ且防禦ヲ加ヘ要害ヲ堅クシ又一員ノ
「アタルツ」ヒスツ（僧官）ヲ置テ其地ノ土人ヲ教化セリ。

其十二莫而都亞ナリ。其地山林荒野多ク其人ノ性モ亦
甚野鄙ナリ。

其十三公國「ミ」ノホコロド」ナリ。其地北ハ窩ル加ニ傍ヘリ。

ハシリユロトヨシ魯西亜ノ大君ヨシ子スハシリウスノ築ク
 所ノ府ナリ故ニ斯ク名ツクト云此城一山下ニ造建シテ高
 加河ノ右ナリシユラト云小河流シテ高ル加河合
 スル所ニ所在セリ即北極出地五十五度一分ニ所在セリ又
 昔時韃靼ノ加山國(此國昔ハ自立、王アリ今ハ魯西亜ト
 郡縣トナル其事下ノ本條ニ詳ナリ)
 ニシテホゴト、府城ヲ去ル九三十五里(日本
 七十里)ナリヨシ子ス
 ハシリウス此城ヲ築キテ韃靼人ノ入寇ヲ防キ且兵ヲ
 修メ此府ヨリメ次第ニ韃靼ノ地ヲ開拓シテ其國ヲ弘
 大セリ此府ノ外郭ナシ然レ共人家ノ如キ皆木ヲ以テ
 華廬ニシテ造建セリ

其十四、公國縛羅弟抹兒ナリ其地南ハ高ル加河ノ傍
 テ魯西亜ノ國中ニ於テ小州ナリト雖モ昔ヨリノ美廬地
 縛羅弟抹兒、即其府ナリコレ昔時魯西亜ノ主ハカ
 コロ
 トシル者始テ此府城ヲ建立シテ曆數九百二十八年(日本延
 後唐天
 咸三年)ヨリシテ魯西亜國主此都セル故ニ此ノ如ク名ツク
 其後此國土、タゴウミアエロイコ、世ニ至テ今ノ「モスコワ」地
 ニ遷都セリ(下ノ世紀ヲ按ハニ云曆數一千三百年(日本正安
 二年)元大徳四年、此國主「カニイル、アレキサンドロウイユ
 ナル者縛羅弟抹兒、地ヨリメ都ヲ「モスコワ」ニ遷スコレヨリシテ魯西亜
 國ノ別名ヲ亦莫斯哥未亞國ト号スト記ノ別ニクコロウ、カスノイユナル者
 ナシ即コレクモウミカスセリス、タニイルハアレキサンドロウイユナル者
 此他ニ此國主「ヨシ子スハシリウス」或ハ「ヨシ子ズハシリウス」又「ヨシ子ス、
 ハシリウス」又「ハシリウス」ト稱シ近時、聖主「ハテル」或ハ
 「ハトロス」人「ヒイラハ」下ノ「稱スル、類ニメ其國語ニ放テハ義同シク

并ニ入ル馬泥亞國ノ帝都コニキン意太里亞國ノ教化主ノ都邏馬・拂
 郎察國ノ王都把理斯諸厄利亞國ノ王都ロンドン伊斯把泥亞國ノ王都
 ナリト波爾社凡爾國ノ王都里亞亞弟瑪瑪加爾王都コシハカ都尼格
 帝都コニスタンチン等ニ其和蘭ノ王都アムステルダム等ニ
 王都ヘルシン意太里亞ノ勿搦祭亞及オレアリウス等ニ
 大ヤリスト弟毛美廉ニテ宿ガハル者此他尚多シ
 所記ニテ一チ六百三十六年（日本寛永十五年）此都内ニ凡四
 萬餘家アリト（コレ悉皆兵火後再ニ造建）而ソ其後又次第ニ造進
 シテ近時ニ至テ凡八萬餘家ニ増シ造リ凡此造建華整
 ニ其宮室殿宇高臺寺觀祠廟及貴家ノ第宅等如
 ハ悉皆屋瓦ニ鍍金ヲ為スカ故ニ遠処ヨリコレヲ望ムハ先輝
 燦爛トシテ人ノ目ヲ駭カス其貴家ノ第宅凡三千餘皆石
 以テコレヲ造建シ其規制齊整ニテ甚宏麗ナリ而ソ其間

木ヲ以テ造建セリ人家モ亦數アリコレニ多ク大衢ノ面面ニ
 非ズ石ヲ以テ造シ諸宅第ノ後ニアリ其木ヲ以テ造ルガ故ニ
 火災ヲ怕レテ多クノ家ノ周廻ニ大ナル塙ヲ築キラコレヲ環ラ
 シ処々ニ小サキ窓ヲ開キ鐵板ヲ以テ窓ノ戸トナス此外ニモ
 富人大家ハ悉皆石ヲ以テコレヲ造リ其他ハ木ヲ以テコレヲ造リ
 コレハ松樹ノ大材ヲ聚メテ重テ造ル者ニテ其制作ハ頗ハ廉ナリ
 コレヲ以テ意ニ任セテ家ヲ移スニ容易ニナルナリ其家ヲ造ル材ハ
 皆市ニ放テコレヲ購フ家ノ大小ニ隨テ其材ノ價一百ルウベ
 ルスヨリシテ二百ルウヘルスニ至ル（コウヘスハ此）其一ルウヘルスハ和
 蘭國（ギネデン）ニ當タル（三三三）和蘭ノ銀錢（ギネデン）ニ日本ノ銀四兩當ル（ギネデン）其屋ヲ

覆つゝ、樹皮ヲ用エ其上ニ草ヲ雜ヘス以テコレヲ覆フヤリ
其上ニ云ハルガ如キ藤匭ナル家ヲ造ル者此都ノ内ニ木ヲ以テコレ
ヲ造ル家ニ時々火火アリ其多キヤハ一月ノ内ニモ數処火火
スルイマリテ其最甚キモノハ一街灰炆トナルイマリ是ヲ以テ
若シ回祿ニ逢フニ其再新ニ家ヲ造ルニ容易ニセンガ為メ此
ノ如キ藤匭ナル制ヲ為スヤリ

此都内ニ火災多キヲ以テ官府ヨリ命シテ其防禦ヲ嚴シク処々
ニ軍卒ヲ備ヘ夜ニ入ルハ馬銃大斧及水器等ヲ携ヘ其行列
ヲ齊ヘテ時々巡行シ若シ一家ニ火起ルヲ見レハ即先ヅ其大斧
ヲ以テ其隣家ヲ墮キテ火ノ他ニ移ラシムルヲ防キ而シ水器等

等ヲ用テ其火ヲ撲滅スルヤリ

此都内ニ多ク長シテ廣キ街衢アリテ其内或ハ稀ニ街ノ上ニ石ヲ敷
排列セザル者アリ此ノ如キ処ハ夏月雨多キヨハ泥深ク往來ニ
宜シカラスコレニ因テ街ノ上ニ材木ヲ排列シテ其制恰モ橋ノ
如クニシテ以テ往來ニ便リセシム故ニ車馬ノ行皆便利ナリ他ノ
石ノ敷キタル街ノ上ニ同シ

此都分テ四部トシ各高キ牆及深キ湍ヲ以テコレヲ環ラシ其要
害甚堅固ニシテ以テ火急ノ事ヤルニ備フ

其第一ノケレニコレト名ク此都^城郭規制最大ニシ恰モ別ニ一
部ヤルカ如シ其城西ノモスコロレ河ニ臨ミ此河コレヨリ流シテ

「コロンナ」城下ニ至テ「カラカ」河ニ合ス

北ケレメルコロジハ石ヲ疊テ高ク牆ヲ築キ環ラズ、澁ヲ以テシ多ク
、高臺ヲ建列ス而シ其城上ニ銃砲ヲ列置セズ銃砲ハ皆
コレヲ府庫藏メテ若シ事マルバハ立ロニコシ出ス、用意ヨク備ハ
レリ城前ニ大市場アリ城中ニ所在ノ帝ノ宮殿ハ美タル石
用ヒ意太里亜國ノ制ニ依リコレヲ造建セリ而シ帝此ニ居ルハ
少ヤシ（コレ新都ハヘタルスナラバ建テ後ハ）故ニ其宮中ノ室房或空
虚ナル者アリ此宮ニ入ルニ長キ階ヲ登ルリ又其側ニ祠廟アリ
此宮ヨリノコシ通スル路アリ此廟中ニ祭祀ノ時帝至テ坐ス
ル所ノ寶座アリテ「アルコヤル」（火ヲ燎ラテ天ヲ）ノ前ニ對シ右及ヒ

皇女等ノ座、其前面ヲ塞キ僅ニ一寸計リ、隙ヲ開キテ外ニッ
コレヲ窺フ能ハカシメ祭祀畢ハ復此路ヨリノ宮ニ還ルリ此路外
人敢テ通スルヤナシ

其帝ノ宝冠宝策宝策ハ西語カセガテハ又「レイキス」スタコ「ト」云フ黄金ヲ
以テコレヲ製シテ諸宝ヲ以テコレヲ飾ルコト帝モ、地所
ノ物ヲ笏類ナリ宝冠及ヒ等ハ別室藏シテ「レイキエカニセリ」（貴官）
名其鎖鑰ヲ司ル帝外邪ノ貢使等ニ見テ時ニ所坐ノ椅子ハ
近世コレヲ別室ニ藏メテ恒ニコシ出シ設ケス其内ニ「ツ」椅子アリ共
ニ石兎西亜國ノ玉ヨリメ北國ノ「ハシキ」コト、（腕木ノ）「如シ其帝ノ足
ノ者ナリ其制我邦（和蘭）「シツン」スツケル（ル椅子）」
ヲ安シル処ハ高クメ且大ニ悉ク美モツテコレヲ飾ル其一椅子ハ

最美潔巧妙ヲ悉シ其帝ノ徳ヲ賛セルコトヲテシ
シテ政羅巴 古ノ國ノ君ナリ
洲中雅語云 語ヲ金字ヲ以テ其上ニ記スコレヲ名チ「ホラン」云
エトヘリシツシユム、リユテ、リスミイムベテトレムト云フナリ

北城中ニ教化、主所居、府第及ニ宝庫並ニ食料ヲ貯フル

諸府庫火藥、府庫其他官廳府第、類多ク左、如シ

「ホッゲリロ」其最有名府庫、專ニ諸外國ノ政治事實等ヲ記ス

ノ処ナリ北側「ロスレト」ト云府第アリ此府ハ魯西亞貴官コレニ

居テ諸工技徒ヲ檢閲スルナリ

「ドウオンツ」此都内ノ政治ヲ記ス、府ナリ

「ボネズ子」魯西亞總國ヨリ所産ノ物品ヲ記ス、府ナリ

「ステールトセ」諸軍卒隊伍等ヲ檢査シテコレヲ記ス、府ナリ

「イノセンスリ」諸外國ヨリ此國ニ來テ居所、技工、後ノ事

ヲ記ス、府ナリ

「カサレセツ」ウオホレス、如山亞私太臘甘、ニ王國及其附属諸州

ノ事ヲ記ス、府ナリ

「リユスヤウ」諸海船及其所用ノ武器等ノ事、モヨリコレヲ記、府ナリ

「ホルスカヤカズ」土地賦稅ノ事ヲ主ニコレヲ記ス、府ナリ

「ソエド」ウオロヂナルコイ及「シエド」ニスエフスエ、兩府共ニ大小

ノ官吏此會聚シテ政ヲ議シ事ヲ記ス、府ナリ

「ハトレユ」賦稅物品出入ノ事ヲ記ス、府ナリ

武器等ノ事ニ至リテハ

「モオスラセセ」諸寺觀、事ヲ記ス、府ナリ

「ハトリアルフセ」(教化主所)諸教法、事及ヒ冠婚祭祀嗣

世寺、事ヲ主リ法行及ヒ諸教法、背リ、徒ヲ戒謹ス、府

ナリ

「ヤダスチ」官府、終歲ノ所用、車馬、夫役其使役之所多少

ヲ檢査シテ其價ヲ給スル、府ナリ

「アホチエキ」即藥局ナリ

「ユウトエドシ」ハ「ラアイ」ハ金銀治鑄、事ヲ主リ記テ官府所

用、價ヲ此府ヨリ給ス

此等、諸府第ヲ魯西亜、人呼テカリカハトシ皆石ヲ以

テ造建シ中ニ多ク、室堂ヲ設ケタダク、書記、官吏コレニ居テ

事ヲ記ス、其中、貴者、別堂ニ坐シ其他、一所ニテテ前ニ長キ

机卓ヲ設テ上ニ赤色、袱ヲ布シ其堂中ニ處々ニ亦多ク赤色

ノ幔ヲ張ナリ

此ノ諸府第、皆城中ニマレナリ又城外ニ尚數多、府第ナリ

其内「ヒスカサエ」ハ銃砲ノ事ヲ主シ、府ナリ「シヘリセ」ハ止

白里諸州ノ事ヲ主リ記ス、府ナリ「ロスサナ」ハ刑罰至死等

ノ事ヲ檢査シ記ス、府ナリ

此城前ニテ城中、教化、主所居、府ニ隣ル、廣キ処ニ大寺

觀ヲ建ツ其形圓ニテ悉ク大石ヲ以テ堅固ニ造営セリ

規制古し中央ニ銀ヲ以テ造ル冠ヲ掛ク其規制極テ大ニ
一凡ニ非ス神母ノ畫像ヲ設クアルタアル(火ヲ燻テ天ノ祭ル臺)ノ前ニ種
々ノ義飾ヲ以テ皆珠玉黄金ヲ用ユ其黄金凡一千斤ニア
ル(古ニ七八義)此寺中ニ又別ニ古ノ聖ト稱セシレトサシカスレト云
人自ラ作ル所ノ神女ノ像ヲ安置セリ

此寺中又三ツノ石棺鐵ヲ以テ櫛トイセシ者ヲ安置セリ此国人ニ
三聖ト稱シテ甚尊敬スル所古人遺蜕ナリ此三聖其一
ヲ「エガリエ」ニシ「アントユウス」ニシ「リヒユス」ト云フ土人ノ所説ニ
云ク此三聖ノ遺蜕今ニ距テ朽ケヌメ尚生ハカ如ト遠近久
皆時ヲ以テ此ノ詣テ礼拜ヲナス

此寺中ニ有名ノ大塔アリコソヲ名テ「インラナリテ」又「コロオアヤニ」ト云
此塔上ニ極テ洪水ナル鐘ヲ掛ク此都ニ旅行セシ者此鐘ノ事ヲ
記ス者多ク曰ク此大鐘此國ノ大君「ホリスヤナ」ノウレ世命ヲ鑄
ル所ノ者ニシ其重リニ十六萬四千斤アリ(百ニ七八)此寺ノ近キ處
ニ大ナル穴アリコソ當時此穴ニ於テ鐘ヲ鑄タルナリ此穴今ニ至
テ再ビコレヲ埋ムナクメ尚存ス此鐘ヲ鳴スニ五十人ヲ用テ
ニ非カレハコレヲ搖カシ鳴ラシムルニ能ハス(彼邦ノ鐘ハ此方ノ鑄馬ノ制ノ
如ク中ニ鐸舌アリ故ニコレヲ鳴ラス
ニハ皆コレヲ搖カシメ
檀クコトハセヌ云)コソ惟大祭及外國使者至ル時ニコレヲ鳴ラス其聲
極テ洪大ダ地コレガ為ニ震揺ス一千七百零二年(日本元祿十四年
清康熙四十年)
此塔ニ火災アリテ鐘地ニ墜テ一ツノ他ノ塔ノ間ニアリ人此ニ至ラコソ

不能尋常漫ハコレ鳴サス惟大祭自及外国居長或使者
等入朝ハ時コレ鳴ラズ其コレ鳴ラズ前官府ヨリ令
都内ノ人家ニ傳ヘテ人家所持ノ硝子及諸柔脆ハ器財ハ
コレコレ拾セシムコレ此鐘声大震ヒテ其硝子諸器ヲ破
碎センコトヲ慮ルガ故アリト云又「ソロイシ」(名)カ紀行ノ書ノ第

ニ卷四ノ葉ニ云フ此鐘重サ二百三十六「セン」ナリ則八千「ホエ
ト」(名)其「ホエト」ハ和蘭ノ三十三斤ナリ然ハ斤ヲ計

キハ此鐘重サ九千六百六十斤ナリ此国大君「キエチ」
ノ世當テ鑄タシ者「大塔」ト懸テ此塔ト云ハ九百八階アリ然レ氏
其後鐘墜テ他ノ塔間ニアリ
(按ハ「カラスケル」ガム「テ」ガ「セン」レ
英新哥未亞百見西亞印度ノ紀行ノ刊

其巨大ナリ九ニ非ス其縁ノ周リニ皆
魯西典ノ文字ヲ記シ又一邊ニ三ノ大ニ高キ頭面ノ形ヲ凸ク鑄出
セリ

右「コレ」ス「オシ」アリ「コレ」ストロス「スロイ」四人ノ所記皆稍少異

アリ又一千七百年(日本元禄十三年)「コレ」ニ「ヒエ」イ「テン」(和蘭ノ内、二)

於テ刊行ス所ノ拂郎察伊斯把臣亞意太里亞入名馬泥亞諒厄利

亞和蘭莫斯科未亞七國紀事ノ書ニ云此鐘高サ十九尺又測
量ニ所用ノ尺ヲ以テコレ計ハ凡十八尺其圍ハ六十四尺厚サ二尺鐸古

ハ圍十四尺重サ三十四萬斤アリト因テ思フ此鐘ノ説異同ナルハ
タト「ハ」エ「ホ」ド」(名)カ所記支那ノ北京ニアル所ノ鐘初傳フ

セルハ千七百二十四年ノ事ナリ即此塔
焚ク鐘ノ地墜ス十四年ノ後ナリ

清康熙三十九年

都會ノ地

其高九尺半測量、尺以テコレ計ハ高八尺圍ニ十九尺半厚
六寸半重サ二万五千四百斤アリト而ソ北京ニ至テ親クコレ計ハ
高サ十二尺四寸測量、尺ニテハ高サ十二尺圍四千四尺厚サ一尺
重サ十三萬斤アリト云フ、類ヒナラン又「ヂェン」ト云人、所著、
地志ニ此「エス」ノ大鐘ハ重サ三百九十四萬斤鐸舌、重サ十萬
斤アリト而ソ「バウ」(カウス) (名)ガ所著、「ラシ」ガ子ス「キエリ」ト
云書ニコレヲ辨シテ曰「ヂェン」ハ數量ノ字、誤リ聞シテ三
十九萬四千斤ヲ三百九十四萬斤トシ一斤ヲ十斤トシ十斤ヲ
百斤トシ百斤ヲ千斤トシ千斤ヲ一萬トシタルアリト云

又貴官「モ」トレイト云人、所著、此國「ベ」ハ「ラシ」コロガテ「帝」ノ

寶錄ニ此鐘、重大ナリ、世界第一ナリ、重サ三十三萬六千
斤高サ二十三尺圍六十四尺厚サ二尺一百余人ヲ用テニ非サレハ
コレヲ動カシテ鳴ラシムルヲ能ハスト記セリ

都ラ西洋ハ鐘ヲ鳴スニ木柱ヲ用井ス否ヲ用テ
鳴ラスナリ、其舌ハ銅ヲ以テ製ス其重サ鐘ノ大
小ニ應ス或ハ百斤或ハ千斤魯西亜ノ大鐘、
舌ナレハ其重サ數千斤又ハ數万斤ナレハ

コ、一葉系本... 後前...
ノ次ニ綴テ...
此ニ入ルハ...

建造セリ 國都「モスコウ」東
在セリ

其十六、公國「モスコウ」ヨリユル魯西亞國中第一ノ地ニ

シテ此地ノ名ニ因テ魯西亞總國ノ一名ヲ又稱シテ莫

斯哥未亞國ト云

國都「モスコウ」城ハ即此州ノ中央ニ在リ此都ノ事狀ハ詳

ニ次篇ニ記ス

「コリエント」其地「モスコウ」ノ都城ヲ去ル「水路」ニテ九

三十二里日本ノ七「マリテ」モスコウ「河」ニ傍テ其東岸ニアリ

北城地ハ頗ル大ニテ其城郭高臺皆石ヲ以テコレヲ築キ

大正十一年
五月廿八日
...

此府城ハ皆木ヲ以テコレヲ造建セリ國都「モスコウ」東

方二十七里(日本ノ五十四里)ニ所在セリ

其十六ハ公國「モスコウ」ハリコレ魯西亞國中第一ノ地

ニテ此地ハ名ニ因テ魯西亞總國ノ一名ヲ又稱シテ莫

斯哥未亞國ト云

國都「モスコウ」城ハ即此州ノ中央ニ在リ此都ノ事狀ハ詳

ニ次篇ニ記ス

「コレニシテ」其地「モスコウ」ハ都城ヲ去ルハ水路ニテ九

三十二里(日本ノ七十三里)マリテ「モスコウ」河ニ傍テ其東岸ニアリ

此城地ハ頗ル大ニテ其城郭高臺皆石ヲ以テコレヲ築キ

要害堅固ニシテ美靡ナリ

國都「モスコウ」ノ紀事第四

「モスコウ」此德國ノ首都ニシテ昔時ヨリ魯西亜德國ニシテ治ル

帝后厄勒察亞ノ教法ノ教化主（厄勒察亞教ハ此德國ノ所奉ノ教ナリ教化主諸教官法師

テ其貴ト主ト者ナリ共ニ所居ノ都ナリコレ其地「モスコウ」ト云

小河アリテ其南取テ流ル、因テ名ク者ナリ

此都ハ平廣ニシテ善キ平坦地ニ在テ北極出地五十五度半ニ南テ即

「ゴオトリヌスラント」（大魯西亜ノ義ナリ而シテ此ニテ所止百里）ノ中央ニシテ

此都ヨリ「モスコウ」（州ノ畫界ニ至テ迄四方各一百二十里）（日本ニ

凡諸宝塔皆其製極テ美靡ニシテ其屋上ノ圓処及上ノ尖リル處皆鍍

金ヲ用テカ故ニ日ニ映ルルキハ光輝燦爛トシテ人ノ眼ヲ射ル此「サボ

オル」（魯西亜語）ノ寺觀其美靡宏大ナル、都内諸寺觀最トス

「シントミカス」ト云ル寺觀アリ此處ニ魯西亜歷代帝王ノ塋陵アリテ

各自其廟堂アリ「アルタハ」（火ヲ燦ラテ天）ノ後ニテ石擲アリ其ハ

此國ノ名譽ノ王ヨシ子スハシリ子スニシテ他ノ二ハ即其人ノ子

ナリ其右ニアルモノハ皇子「デメトリウス」ナリコレ一千五百九十一年

日本天正十九年（明萬曆十九年）ニ大臣「ホルリスギステ」ヲ弑セラシ其後彼弑シ

遭タル處ヨリ「樞」（軀）此寺ニ遷シ其祀ヲ莊嚴ニシテコレヲ葬リ

大ニ石柱ヲ建テ「アルタハ」ノ前ニヤタシ、此「デメトリウス」ハ魯西

ニテハ或
ニテハ或
ニテハ或

西亜、人コレヲ畏レ敬フ、鬼神、如リス(「カトカウス」)又「ベテル、

デシコロオテ「帝」父「アレキシス」カエロウイス帝、堂陵及其ニテ

「アラトハ」アレキシウス「イシ、アレキシウス」(「オシ」)二帝、堂

陵、皆其上ヲ覆フニ宝冠ヲ以テシテ此寺、中央、処ニアリ共ニ

銅ヲ以テ其周邊ヲ修飾シ美麗ナル幔幕ヲ設ク殊ニ其「イシ」

ノ堂陵ハ「トルコス」(「義石」)ヲ以テコシ固クシニツノ陵廟等皆其壯

麗ヲ悉セリ

其他諸帝、堂陵ハ長ク排列シテ墻ニ傍シ其陵廟共美麗ニシテ

幔幕ヲ設ケリ

其皇子帝位ニ登ラセラル者此寺内、別処ニ陵墓ヲ排列シテ凡ソ

アリ其制亦壯麗ナリト雖モ敢テ諸帝、陵、如クニ大ナラス

上ニ云諸帝、堂陵、幔幕、如キハ大祭及ニ外邦、人主ヲ拜礼

ナス、時ハ殊ニ其美麗貴重ナル者ヲ設ク皆魯西亞、規制

ニ依テ其精好ヲ悉シ地ニ布リ、天鷲絨緞、組ッ用シ上面ニ黄金

ノ十字ヲ安シ其ヨリ垂シ糸帶上ニ魯西亞、文字ヲ以テ其帝

生時、事蹟功德等ヲ記ス又コレヲ飾ルニ數千、明珠美玉

等ヲ以テスルナリ

此寺中ニ又古、聖人「アレキシウス」ノ墓アリ又此処ニ、本ヲ以テ

造ルル十字ヲ建ツ此処ニ古聖ヨリ遺物多ク諸人此ニ詣テ其

礼拝供養ス

又此郭内ニテ、寺アリ一僧寺ハ尼寺ナリ其尼寺ハ内ニ歴代
后妃及諸皇女ノ塋陵アリ其規制壯麗ナリ亦帝及皇
子ノ塋陵、如此處ニ又聖人「アイルトリユ」ノ墓アリコレハ今
ヲ去ルヘ三百年前ノ人ニシテ甚奇特神異ナリ甚事蹟多ク
マリト云

其第ニ郭ハ名テ「キタイゴト」ト云或云コレ中郭ト云義コレハ
此郭ハ都ノ中央ニアルカ故名ク「ト」又或コレ支那郭ト云義ナリ
魯西亜ノ人支那ヲ謂テ「キタイ」ト云此郭内ニテ多ク支那ノ
貨物ヲ出入スルカ故名ク「ト」此郭ノ周圍皆石ヲ以テ高キ塙ニ築
テコレヲ環ニスコレヲ魯西亜ノ人呼テ「カラスヤスキ」ナト云コレ

赤塙ト云義ニシテ此塙都テ赤色ニ塗彩セルカ故ナリ其後ハ
國ノ皇女「リヒア」幼キヲ輔ケテ政ヲ為セシ時（ヘテル、レン、コロガテ
帝ノ幼キ時ニ其幼
下ノ世紀ニ詳見ナリ）改テ白色ニ塗彩セシメテ今高コレニ因テ此郭内
ニ「寺觀」アリ名テ「ヘイフ、ケテリイヒユクヘイ」（三位一赫聖寺
ト云ル義ナリ）
ト云フ又「エリユサレム」ト稱スコレ此國ノ大君「ヨシ子ス」ハリテス
意太里亞國ノ良匠ニ命ジテ造建セシム所ニシテ其規制亦
極テ精妙ナリ此寺ニ近キ處ニ市アリテ大ニ貨物ヲ貿易シテ
終日人烟繁昌ナリ而シテ其中間暇遊觀ノ人亦殊ニ夥シ此
市場ハ貨物彌多ク、店充滿シテ且各種ノ高貴貨物皆右
自街衢ヲ分シ即繡工布商及ニ羊絨ヲ賣ル以テ店等ハ一街

ニ店ヲ排列シ金銀鍛冶、又別、一街ニ聚リ列シ其他、鞍
匠衣匠及ヒ諸般、工商技藝、徒其同行、各一街ニ聚リ貨
物ヲ鬻キテ敢テ諸物混雜セザル故ニ往來、人皆各欲スル所
ノ貨ナル街トシ店ニ聚テ甚繁華ナリ其中中央當ル一街ハ
コレ婦人布ヲ鬻ク者、店トス又一街ナリ此街ハ都テ諸神
ノ像ヲ鬻ク、店ナリ魯西丑、人コレヲ購フニハ錢貨ヲ充スル
カ如ク以テ謂ク其各人尊敬歸依スル所、像ヲ購フニ何レ其
值ノ高低ヲ論シ且先ニ像ヲ得テ後日ヲ期シテ貨ヲ償フ
イリヤヤト故ニ此像ヲ求ムニハ當場ニ貨ヲ以テコレヲ購フテ

敢テ借債著ノ事ナシ

又此郭内ニ多ク貴人ノ第宅并ニ多ク官ノ府庫及ヒ商賈ノ貨物ヲ
貯フルノ庫ナリ

其第一郭ハ名テ「カセル」ト云コシ王郭ト云義ナリ又一名

「ベロイコロ」ト云此郭、牆皆白ク塗彩セル石ヲ用ユ中ニ大臣
貴族、府第及ヒ工商、徒多シ而シ麥餅ヲ製スルヲ以テ著ナク
者最多シ此郭内、子ナリナト云河水アリテ通流ス

其第四郭ハ名テ「スコロキム」ト云和蘭語ニ譯スルハ「ハラストヘン」ト

速ニ成ト云義ナリト云ハ皆土ヲ以テ封疆ヲ築キテコレヲ

日終の時凡其諸祭日殊其「バラス、ハムスト」云大祭時節
ニ諸人群聚シテ鐘ヲ鳴ス其鳴ス者罪障ヲ滅シ吉利ヲ
得ルガ為ニスト云其鐘ノ如キ惟自國ニテ所禱ノ者ノミナラス
入ル馬泥^{セルマニ}亞^{ニア}和蘭等ノ國ヨリモ亦コレヲ輸ス者アリテコレヲ其
鐸方ニ綱ヲ繫キテコレヲ搖カシ鳴スアリ亦此部内ニ時刻ヲ報
スル鐘アルモ數箇寺マリテ其内貴族「大レシコツス」ナル者
所建ノ壯麗ナル一寺ニ鐘樂ヲ以テ時ヲ報スルアリ
其貴族大家ニ右刻漏ヲ設ケテ守ル、吏ヲ置テ時毎ニ槌
ヲ以テ盤、如キ器ヲ敲キテ以テ時ヲ報ス尋常ノ人家ニ皆

日昇降ヲ察シテ以テ時ヲ知ル
「バラス、ハムスト」帝此部内ニ三処ノ學校ヲ設ケ學師ヲ延テ國
中及シ波羅泥亞^{ボラニ}亞^{ニア}諸州ノ學徒ヲ以テ習學
セシム

其第一學校ニ素ウ修齊治平礼典等ノ學ヲ講習シテ一千七百十
六年^{日本享保元年}ニ學徒凡シ四百人皆^本國及シ波羅泥亞^{ボラニ}亞^{ニア}
「ウリウイ子」等ノ人ニテ其學校ノ事ヲ總管セル普西亞僧極
テ才智德行アリシ人ナリ

第二學校ニ素ウ天文地理測量ノ學ヲ講習シテ同時ニ學

徒凡七百餘人、其學師、內、下、諸厄利亞國、人、ヨリ、魯
西、亞、諸、通、曉、セ、ル、ヲ、テ、且、才、德、人、之、勝、レ、學、徒、ヲ、教、導、ス、ル、イ
甚、方、マ、リ、テ、其、門、下、多、ク、名、譽、ノ、ヲ、出、ス、此、人、其、後、魯、西
再、帝、ヨリ、高、官、ニ、擢、テ、コ、シ、^都新、部、ハ、テ、ル、ス、グ、ル、カ、ニ、新、所
建、ノ、航、海、ノ、學、ヲ、講、習、ス、ル、學、校、ノ、高、師、ト、セ、リ、
第、三、ノ、學、校、ハ、幼、童、ヲ、教、育、ス、ル、ニ、テ、諸、文、學、技、藝、并、航、海

術、ヲ、講、習、セ、シ、ム

又、其、藥、局、其、造、建、甚、壯、麗、ニ、テ、歐、羅、巴、洲、中、ニ、於、テ、名、ハ、ル
藥、局、其、一、ト、ス、此、藥、局、藥、物、并、救、療、費、用、每、年

「ル、カ、ハ、ス」
（此、國、金）
二、萬、餘、ナ、リ

千、六、百、九、十、九、年、（日、本、元、祿、十、二、年）
（清、唐、熙、三、十、八、年）
ニ、コ、ハ、ル、ゾ、コ、オ、ク、帝、命、シ、テ、地、ヲ
撰、ビ、テ、諸、器、材、ヲ、藏、ル、府、庫、ヲ、造、建、セ、シ、ム、其、規、制、極、テ、廣、大、隆
固、ト、シ、牆、ヲ、築、テ、コ、レ、ヲ、環、ラ、シ、其、官、府、ヨリ、此、ニ、至、ル、道、ハ、柵、建
テ、其、間、ヲ、通、ス、其、後、新、部、^{ハ、テ、ル、ス、}「^{ハ、テ、ル、ス、}」^{ハ、テ、ル、ス、}所、建、ル、府、庫、亦、此、制
ニ、依、ル

又、小、室、ヲ、リ、其、制、モ、亦、麗、ナ、リ、中、ニ、一、ノ、地、球、ヲ、安、置、ス、其、制、極、テ
巧、妙、美、麗、ナ、リ、コ、レ、和、蘭、ニ、請、ヒ、和、蘭、ノ、良、匠、ヲ、シ、メ、コ、レ、ヲ、造、ラ、シ、メ、數
年、ヲ、成、テ、此、部、ニ、輸、ス、即、此、貯、ル、者、ナ、リ、又、北、堂、中、ニ、一、ノ、小、舟

西、曠マツテ其制極テ巧妙ヲ悉セル者アリコレハ、ミカエルト
ロウイハ帝自ら作所、者ニ亦此處置シテ以テ奇觀ト爲ス
ト云

北都、異ニ獸園アリテ生ケル獅子、虎、豹、白熊、黒狐、貂、諸獸
及ヒ種々羽毛ノ美麗ナル稀奇ノ諸鳥ヲ畜テ其詔ヲ告ケル者
園中ニ見者其形頗（猶）似タリ時ヲ以テ弓人ハ長杖ヲ以テコレヲ
殺シテ其皮ヲ取ルナリ（解事ノ第
十四篇ニ詳ナリ）
トスツ山ノ都ヲ去リテ四半里（日本ノ
半里）ニテ一ト壯麗ナル尼観アリコレハテ
ルラン、ゴロオアラ帝、妙皇女カヒヤ「政ヲ辞シテ後此ニ居テ靜坐

修真スルハ十五年ニ卒ス因テ此處ニ葬ル皇女カヒヤナリ、其墓亦コレニア
リ又皇女ゴロアラ「ナメリテ」三人モ曾テ此ニ居リシトアリ（右ニ云皇女、
カヒヤ、ススハハヘテハ、ミト、ゴロオチ帝ノ
異母姉ニシテタテテ帝ノ向女ノ妹ナリ）
北都ヲ去リテ半里ニテ一寺観アリ「シモ、ウロシスニイ」ヤ名クコレ「ウクラ
イ子」ノ地内大乃河ノ邊、僧ノミ所居アリコレ今ヲ去リテ百餘年
（此原書刊行ノ時ヨリメ
百餘年前ヲ去ラナリ）ニ大乃河ノ松テ一ノ神母ノ像ヲ得タリ因テ
此寺ヲ建立シテ其像ヲ安置スルト云
北都ヲ去リテ八里（日本ノ
十里）ニテ一有名ト壯麗ナル寺観アリ「ウオスヤセ」セ
ンヌスハト名クコレ北都ニ於テ聖人ト稱セル教化主「ニキン」ト皮「カユ

こ教化主食物ヲ煮タルノ処ナリ其寝臥セシ処ハ長サ四尺計
幅二尺計ニモ唯方形ナル一石ノミナリ其上ニ臥シテ僅ニ藁ヲ
以テ編ミタルヲ以テ被ラシテ躰ヲ覆ヒタルニ此藁被ハ今尚
此寺貯テ遠方外邦ノ人恒詣テコレヲ頂礼シテ其藁興利
毫ノ屑ヲ諸求メ得テ大聖人ノ遺宝ナリトソコレヲ貯テ故
今ハ其被ノ半ノミ残リト云此教化主恒ニ此石室ニ居テ夏
冬ヲ論セズ側ニ侍スル者ハ唯二人老僕ノミ身ニ餘財アレハ
悉皆コレヲ行者乞兒貧人等ニ施セリト云

又有名寺觀「トコロオケトセ」ト名ケル者ハ国都「モスコウ」ヲ去ルハ十

二里(日本三十四里)ナル処ニアリテ即其地ノ郭邑ヲモ此寺ノ名ニ因テ「トコロ
イ」セト名ケ其周圍皆石ヲ以テ高ク墻ヲ築キテコレヲ環ニス其
内ノ殿堂モ亦悉ク石ヲ以テコレヲ建ツ其墻ハ方形ニシテ其四
隅ノ処ニ各一座ノ大ニ宝塔アリテ共ニ圓形ニ造建ス然レ
寺中所有ノ其他ノ塔ハ皆方形ヲナス此寺其前面ニ三ノ門ヲ
開リ其中大ノ門其形半圓ニ内ニ守門ノ卒所居ノ小室アリ
此門ヨリ進クハ真ニ大殿ニ至ル他ノ門ヨリ入ル処下殿ニ至マテ
ノ間ノ路ノ間隔ス右ノ門ヨリ進クハ帝ヨリ所置ノ官吏ノ室堂
アリ其外觀ハ甚美ナリ然レモ其内ニ入ルハ則其規制稍劣リテ

外ヨリメ觀望スル如ク、義廉ニハラス左門ヨリメ進ム即僧房ニシテ
其數凡三百アリ此寺觀ノ中ニ尚大小、殿凡五ヶ処アリ凡寺
觀、規制甚大ナル故コレヲ望ムハ恰モ城ヲ建置ルカ如ク「アブ」
（第^五品）コレヲ守リ其恒ニ此地、大家巨室、婚儀葬祭等因
テ此ニ輸スレバ收ルルニモ亦甚夥シシテ給用甚富メリ此僧
官及ヒ帝ヨリ所置、官吏、所官ノ士人凡三萬六千餘人アリト云
此寺中、「ハイリゲ、テレイセルキガヘ」トテ殿ノ傍ニ聖人、セルシ
シスレ、墓アリテコレニ云聖人教化主「ニスシ」弟子ナリ
莫斯哥未亞、人所説ニ云其遺蜕今尚存ツ朽ナス且奇異、

靈驗多シ曾テ波羅泥亞、人兵ヲ此邊ニ屯メ此寺ヲ隨テシセシニ
此寺僧コレヲ其聖人ニ告ケ禱リシカ、忽チ奇驗アリテ波羅泥亞
ノ軍中自ラ亂レテ敗散セリト
（昔西亞國ハ都ヲ厄勒祭典、教ヲ奉メ
波羅泥亞、遣馬ノ放ツ奉メ其教門異ル
加故彼此各其教ヲ排スルニ
因テ敵トナリ者ヲホシテセシ）此事ハ波羅泥亞、大將「ヨ」ハ、セルハ「ナル者」
所記モ亦波羅泥亞、人兵ヲ此寺邊ニ屯メシ軍中自ラ騷擾メ
人心一致セズ其内ニ魯西亞及雪際亞、援兵並ヒ屯メシ因テ
此処ヨリ敗走セリト
凡「エ」コウ、都ノ周邊ハ都ヲ人、道遙遊歩スニ宜ク地方繁華
富饒ニシテ義華ナル庭園及遊息家屋花菓樹林等甚多シ其
内ニ諸厄利亞人、高館ニ二月
（此方ノ大寒ニ入テ十一月、比ヨリ
ノ雨水ヨリ九日或ハ十日、比至ル

向ヲニニ至ハ玫瑰及ヒ「アスベルトス」(草花)既ニヨリ花ヲ開ク者甚
月トス

名アリ

「モスコウ」都邊ニ其樹林間諸鳥宛轉ト鳴啼スル者充満セリ然レ

氏新都「ペテルスブルク」邊ノ樹林ニ鳥極テ稀ナリコレニ因テ近年

「モスコウ」市場ニ於テ一千五百「ルウベル」(此國ノ金)ヲ以テ

數千ノ馬ヲ購ヒテコレヲ「ペテルスブルク」ニ送り悉クコレヲ都内ノ

樹林ニ放ツコレヨリノ諸鳥其種ノ生育ニテ今ハ新都ニモ亦諸鳥

極テ夥シト云

「モスコウ」都邊ハ一切日用ノ物及ヒ旅人ノ宿セシムル價共ニ皆甚賤

クシテ「ペテルスブルク」ハ新ニ造建セラル都ニシテ初メ諸方ノ商舶

半島運送ノ貨物散ラ今ノ如クハ輻湊セザリニ因テナリ然

レ其後次第ニ諸方ノ貨ヲ輸ス「日」ニ夥シキ「九」ニ非サルニ因テ

其日用ノ貨物モ亦賤クシテ初メ「萬」(金銀)ニマダ

リシ物今ハ四千「ルウベル」ニマタナリ

「モスコウ」都邊都ヲ諸穀諸菓及ヒ畜獸野獸極テ夥シ然レ

齋日ニハ魚ノ價頗ル高シトナリ(此國ノ俗持齋ノ日ニ獸ヲ食セズト云フナリ)

昔時此國ノ制度法令德化政教著ク普ク萬民ニ行ハレザルニ因

テ此都内ノ風俗モ亦陋シク多ク懶惰ニシテ間ナルヲ好ムテ其

職業ヲ勉メサルハ故ニ貧人乞丐及ヒ此類素餐ノ徒甚多クシテ

或ハ其貧キ場ヘシテ盜掠ヲナス者間々コレアリ故ニ士人夜ニ至ラン

トスレハ皆家ヲ守リテ外ニ出ル者稀ナリ夜行スレハ時々其害
ニ逢フ殊ニ「ボオトル」ノ時最甚シトセリ「ボオトル」

ウエテシ、夜ヲ過キテ旦ニ及ヒテ都内ニ於テ殺傷セラルル屍凡

六十ヲ得タハ「ボオトル」コト此土人ノ常ニ以テ大患トスル所ノ者ナリ

他州ノ人此國政ヲ善クスル此ノ如キヲ笑ヒ嘲リテ言ハルヤアリ曰皇帝

居太高。國主居太遠。下民有憂患。無所去訴寃。（コレ彼邦、詩歌ノ類

ニテ韻ヲ押テ所作ノ者ナリ今譯スル所此也

然レ此國ノ徳化政教其後日々盛ニシテ萬民次第ニシレシレ右

其道ヲ守テ其職ヲ勤メ且官府ヨリモ嚴ニ盜賊ヲ緝捕シ殊

ニ千七百一十六年（日本享保元年）ニ貴族「ドム」ニ「ユウ」ナル者

此都刑官長タリ時ニ兇徒諸省領及其黨與ニ至テ半恣

クトキテ捕得テ其罪ノ輕重ニ因テ差等ヲ分テ其内ニ於テ殊

トナス者凡二百人其他亦皆刑罪ニ処シテコレヨリ後ハ都内悉ク

靜謐ニシテ萬民皆太平、化シ浴セリト云

魯西亞國志卷之一終



